

令和3年度

第2回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録  
(令和3年度 第2回)

- 1 日 付 令和3年11月27日(土)
- 2 場 所 門沢橋コミセン レクリエーション室
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康  
教育委員 酒井 道子 教育委員 平井 照江  
教育委員 濱田 望 教育委員 武井 哲也
- 4 事務局 教育部長 伊藤 修 教育部次長 澤田 英之  
教育部参事 萩原 明美 参事兼教育総務課長 中込 紀美子  
就学支援課長兼指導主事 小林 丈記 参事兼教育支援課長兼指導主事 坂野 千幸  
教育支援担当課長兼指導主事 浅井 大輔 学び支援課長 山田 敦司
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項  
(1) 学校給食アンケート結果について  
(2) 学校現場における多様な子どもたちの支援について  
(3) 図書館の取組について
- 7 閉会時刻 午前11時40分

○**教育部次長** ただいまより令和3年度第2回海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日司会進行をさせていただきます教育部次長の澤田と申します。よろしくお願いいたします。

進行につきましては、本日お配りしております次第により進めさせていただきます。

また、本日の会議も海老名市YouTubeチャンネルにてライブ配信しております。なお、ライブ配信は次第3の協議事項までとさせていただきます、次第4学校紹介につきましては、発表者や発表内容に関する個人情報保護の観点から配信は致しません。

何卒ご了承願います。

はじめに、市長と教育長よりご挨拶を申し上げます。

それでは、内野市長、よろしくお願いいたします。

○**市長** この海老名市総合教育会議は、市長と教育委員会が連携して、海老名市教育大綱や教育の条件整備など、重点的に講ずる施策などについて協議調整する場です。しかしながら、県下の状況を伺いますと、年に1回程度、形式的に実施しているところも多いようです。このような中で海老名市は、教育長、教育委員と私と、連携し、密に話をしながら、子どもたちのためという視点に立って、このように会議が活発化していると思います。前回、前々回は新型コロナウイルス感染症対策として、傍聴者はライブ配信でご視聴いただきました。今回はこのように会場で開催といたしました。新型コロナウイルス感染症については10月28日以降、感染者がゼロです。ワクチン接種も、海老名市は、65歳以上の接種率が92%程度ということで、県下では19市の中でトップクラスであります。全体では、つい最近の集計では87%の方が接種しているということで、19市でトップの接種率になっております。やはりある程度、ワクチン接種が感染予防に寄与しているというふうに私は思っています。3回目がまもなく始まります。65歳以上の方は2月から接種が始まります。接種する会場・日時を指定した接種券が発送されますので、よろしくお願いいたします。

本日の協議事項は3件ございます。また、本日は有馬中学校の学校紹介もありますので、楽しみにしております。

先日、11月1日に、海老名市が町から市になって50周年となる式典を行いました。未来を担う中学生による進行、そして全国大会で金賞を取った海老名中学校の吹奏楽部の演奏、そして東関東大会合唱の部で銀賞を取った今泉中学校の生徒による合唱があり、出席された被表彰者の皆様から、すばらしい式典だったというお声かけをいただきました。子

どもたちがすばらしいと。子どもたちの元気な取組は海老名市の財産だと思っています。今回初めて11月1日、学校をお休みにしましたけれども、これからも子どもたちが元気になるような取組が必要ではないかなと私は思っています。どうかこれからもよろしくお願いしたいと思います。

新型コロナウイルス感染症対策による緊張感は続いております。今後も教育委員の皆さま方、子どもたちのためによりしくお願い申し上げます。

○教育部次長 ありがとうございます。

続きまして、伊藤教育長からお願いいたします。

○教育長 おはようございます。本日は久しぶりに会場での開催となり、来ていただいた皆さま、どうもありがとうございます。

学校のほうは、校長先生方も来ておりますけれども、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いていることもありまして、10月から、運動会や学校行事、通常の教育活動も、感染症対策を徹底し、行っております。ある程度通常どおり行われているので、子どもたちも、昨年度の状況よりは気持ちの面で少し楽な状況で教育活動に参加できているのではないかと考えているところでございます。

そのような中、先日の愛知県での中学校の事件は大変ショックを受けた出来事でございます。私自身は、教員だったものですから、担任の先生がどのような気持ちでいるかを考えておりました。自分のクラスの生徒を守れなかったとか、何とかこれを止められなかったかということです。非常に思い悩んでいるのではないかと考えます。保護者の立場でも自分の子どもがこのような状況になったら自分はどう思うか等、様々なことを考えたところでございます。教育行政を進める私としては、どのようなことで子どもたちを守ることができるのだろうか考えるわけです。市長も大変気にされておりました。現地の教育委員会も子どもたちに対する学校の聞き取り等の報告を受けて、報道にあったように、事件のきっかけとなるようなことはなかった、というようなコメントとなったのかもしれませんが。そういった面では確かになかったのかもしれませんが。でも、子どもたちの心の中を、子どもたちが思い悩んでいることを本当に大人は理解できているのかなと考えます。子どもたちにアンケート調査を行ったとしても、子どもたちが本当に自分の思いをそこに書けるかと考えると、どのような形だったら、悩みを持った子どもたちが表現できるのか、システムとか、そのような場とか、そのような関係がつかれるのか等、考えました。

もちろん全ての事件の原因というわけではなく、今回の事件は、その子の思いが本当に

強くて、その思いをどうにも自分で消化できなかったということがあるのかもしれませんが、けれども、どのような形でそれを支えていくかということは、十分に考えていかなければならないことです。

総合教育会議のテーマにもふさわしい内容ですが、本日は「学校給食アンケート結果について」「学校現場における多様な子どもたちの支援について」「図書館の取組について」の3つの議題を協議します。私が日頃思うことは、子どもたちにとっての手本は社会です。大人の我々がつくっている社会を反映するのが子どもたちです。子どもたちは大人の姿からしか学べない。同様の事件が毎日のように報道されています。事件が起こっている背景を考えると、我々大人たちが子どもたちを支えるために、自分たちの社会をどう改善していくか見透かされているようだなと。大人たちが真剣に取り組む姿を子どもたちに見せていくのがひとつの手だてなのかなと私自身は考えるところでございます。また皆さまとも今後このようなことを議論できたらよいと思います。それでは、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

**○教育部次長** ありがとうございます。

それでは、次第3の協議に入りたいと思います。

これより協議の進行につきましては、内野市長に議長をお願いしたいと思います。内野市長、お願いいたします。

**○市長** 協議事項に入る前に、海野教育委員が9月末日に退任し、10月より新しい教育委員に選任されました武井教育委員をご紹介します。

**○武井委員** 皆さま、こんにちは。10月から新しく教育委員になった武井と申します。教育委員会、教育行政のために一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

**○市長** それでは、協議事項(1)「学校給食アンケート結果について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

**○就学支援課長** 就学支援課小林からご説明させていただきます。スライドをご覧ください。学校給食において様々な取組を行っておりますが、先ほどお話にもありましたように「市制施行50周年お祝い給食」を提供させていただきました。小学校を訪問し、うれしい感想をいただきました。改めて多くの子どもたちの笑顔に支えられているなど感じられたところです。

学校給食アンケート結果について説明いたします。「①中学校給食実施に向けての意

識調査」 「②今後の学校給食の運営に向けて」という趣旨に基づきオンラインでのアンケート調査を行いました。対象は、小学校6年生児童618名（5校抽出）、中学校1年生生徒594名（3校抽出）です。回答率は小学校84%、中学校91%となっております。

小学校へのアンケート項目はスライドのとおりです。

次のスライドは中学校へのアンケート項目になります。アンケートの結果とともに確認をしていきたいと思えます。

では、まず小学校のアンケートの結果です。「『給食』は好きですか？」の設問に対し、回答約85%が「はい」で回答を受けています。理由は「おいしいから」、「あたたかいから」等、回答がありますけれども、毎日子どもたちが食べられる安心感とか、献立の工夫というところが考えられます。現在は、このコロナ禍において黙食となっておりますけれども、高い評価を得られたかなと思っています。

続いて「給食の味・量について」です。「おいしい」、量についても「ちょうどよい」と、おおむね満足している結果が得られていると捉えています。

続いて「給食の品数について」は「ちょうどよい」が75.9%、「あたたかさについても「ちょうどよい」が66.2%というところで、子どもたちはおおむね満足していると思えます。ただ、「あたたかさについて」は、3割が「冷たい」と感じているので、対策を検討していく必要があると思っています。

続いて、子どもたちの給食の嗜好面で確認をしているのですが、「好きな献立は何？」という設問に対し、上位順に「カレー」、「揚げパン」、「からあげ」、「フルーツミックス」となっています。先ほどお伝えした市制施行50周年給食では、カレー、フルーツミックスを提供しました。

「苦手な献立は何？」という設問に対しては、「魚をつかった献立」、「野菜が入っている献立」という結果となりました。子どもたちの栄養バランスを考えながら、さらにおいしく子どもたちに食べてもらえるメニューに改善していくことに努めていかなければいけないと思えます。

続いて、今年度から中学校給食の実施に向けての設問ですが、小学生への「中学校での学校給食は楽しみですか？」という設問に対して、「楽しみ」が50.1%。半々という結果となりました。令和元年度の調査結果も掲載しましたが、子どもたちにとっては、家庭で作る弁当への楽しみもあります。改めて中学校給食のキャンペーンをしていく必要性を感じているところです。

続いて、小学生に地産地消について調査しました。食育に関する授業や献立表を通して情報提供をしている面、学校給食に関する放送を流す学校もありますので、子どもたちにも地産地消の認知度は高いようです。右手のほうに海老名市の地産地消の食材について載せてあります。人気のイチゴも100%海老名産で提供しております。

続いて中学校でのアンケート結果です。中学生に対しても、「中学校での学校給食は楽しみですか」。こちらについては、「楽しみ」と答えている生徒が40.8%。まだまだ認識が低いと捉えていますので、積極的にキャンペーンや広報をしていかなければいけないと感じているところです。一方で、これも令和元年度の調査結果を掲載いたしました。保護者にとっては、中学校でも小学校同様に給食を提供してほしいという願いを持っていることがわかります。引き続き保護者に対しても今後の中学校給食について進捗を説明していきたいと考えています。

中学生への設問に戻りますが、中学校給食が始まるとするならば「中学校給食にどのようなものを望みますか？」という設問に対しては、やはり「あたたかいもの」、それから「味付けがよいもの」を望んでいます。

中学生の給食で食べてみたい献立として、「寿司」、「ラーメン」が上位に挙がりますが、赤い文字で表示している「カレー」、「からあげ」、「揚げパン」、それから「ジャージャー麺」は学校給食で人気のメニューとなっております。小学校のときに食べた給食というところで愛着を感じていることがわかります。

設問5 喫食時間に関する設問ですけれども、中学校の教育課程では現在、昼食の時間は20分程度となっており、子どもたちも喫食時間にはおおむね満足しているという結果が得られています。今後、給食の準備、片づけまでを考えると、教育課程の工夫が必要となってきます。

設問6 「地産地消を知っていますか」という小学生と同様の設問については、約7割、中学生も知っています。海老名市では、地産地消、海老名市産の野菜等を使った給食の提供、それから、えびな（かながわ）産品学校給食デーということで、神奈川県内の食材を使った給食の提供にも努めているところです。

最後となりますが、アンケートの結果を受けて、中学校給食は楽しみかという部分の認知度が低いと捉えていますので、今後中学校給食が始まることにわくわく感を持ってもらえるようなキャンペーンを子どもたち、また保護者に対し、実施していく必要があると考えています。

それから、子どもたちは、魚、野菜を使った献立を苦手としておりましたので、さらなる献立の改善、工夫、魅力ある給食を提供していきたいと思っています。

それから、地産地消のキャンペーンについてですが、神奈川県産野菜だけでなく、食肉も含めまして、地産地消というところ、地域への愛着の醸成というところも含めて対応していく必要があると考えています。

このようなアンケートの結果をもとに、引き続きよりよい給食の提供、それから、中学校給食の提供、運営に努めてまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○市長 協議事項(1) 「学校給食アンケート結果について」事務局から説明がありました。教育委員の皆さまからご意見等ございますか。

○濱田委員 質問ですけれども、アンケート結果の中の9ページ、中学校給食について、令和元年度調査では「現在のまま」を希望する保護者の方がいらっしゃいますが、どのような状況でこのような希望になっているのか、分かる範囲で教えてください。

○就学支援課長 学校給食について、様々な配慮は行っておりますが、保護者の中には、やはりアレルギーの関係、宗教や国籍、文化によって食べられる食材に限りがあってお弁当を持っていきたい、それから、子どもたちの食べる量とか嗜好面を踏まえてお弁当を持っていきたいという保護者がいるようです。

○濱田委員 分かりました。

○市長 ほかに。

○酒井委員 市制施行50周年記念給食が大変おいしかったということを保護者の方からも、小学生からも伺いました。子どもが喜ぶ給食を提供していただいたので、学校でも市制施行50周年をお祝いする気持ちが高まったと思います。ありがとうございました。

給食の取組は、以前からアンケートも実施して、中学校給食の導入を目指して取り組んできたのですけれども、この取組を保護者でない市民の方にも知っていただく機会ができるとよいなと常々思っております。給食を試食できる場を、食の創造館ではなくて、市役所でフェアのような形でやってみるとか、保護者でない市民の方に知っていただく機会ができるのではないかと期待していますので、可能であればご検討いただきたいと思っております。

○市長 保健所の問題もあると思いますが、教育委員会のほうではいかがでしょうか。

○教育長 学校で実施することも考えられます。

○市長 他にございますか。

○武井委員 設問8ですけれども、好きな献立と苦手な献立という部分で、小学校から学校給食の中に少しずつ食育の授業があると、食べる理由、食べなければいけない理由が分かってくると思っています。結果を見ると、好きな献立は炭水化物のメニューが多いとか、苦手な献立の中には、体によいものがたくさん入っています。例えば魚とか。簡単に「魚」と言いますが、魚一切れでどれだけのたんぱく質がとれるか、他の食材で補うとしたらどのくらい摂らなければならないのかということ。献立のどこかに一言コメントとして入っていると、小学校から積み重なっている嫌いな食べ物も、実は体にととても良いという理由づけがあることで苦手意識が減っていくのかなと思ひましてご提案させていただきました。よろしくお願ひします。

○教育長 栄養士による食育の授業もあります。ただ、子どもたちは本当に食べ物に対して嗜好が強いので、そういう意味でいうと、乳幼児とか、要するに食べ始めのときからの食の習慣が関係していると思われまひます。就学前はこどもセンターでとなるのかな、その後は学校となりますが、幼いころから食べ物についての情報が与えられるべきだなと思ひまひます。子どもたちだけでなく、私も、市長もそうでしょうけれども、嫌いなものは食べたくないですよね。でも、栄養面等を知っていることで自然に食べられるようになると思ひまひます。あとは調理方法の工夫です。例えばキャベツが給食で出るのですが、キャベツの芯なんかも入っていて、私もちょっとそれは苦手です。温かいものでも食べているうちにすぐ冷めると食べにくくなるものもあります。調理方法も工夫が必要だと思ひまひます。体によいものを子どもたちが食べられるように工夫は取り入れてまいりたいと思ひまひます。

○平井委員 献立のアンケートを実施して、教育委員会が保護者や子どもの給食に対する状況を把握しているということは大変良いことだと思ひまひます。今後も1年に1回程度、状況を把握していくことは必要だと思ひまひます。

今回、アンケートを実施していただいた中で、私が気になったのが、子どもの希望と親の希望の差があるということです。親は90%以上が給食を希望し、子どもは60%程度、給食を楽しみでない、お弁当が良いという思ひを持っているということ。海老名市で新しく中学校給食を始めるならば、海老名市の、令和の新しい給食の形をつくっていったほうがよいのではないかとと思ひまひます。今までのように、ただ子どもたちに与えるだけではなくて、子どもたちが希望するものは何だろうか。中学生だったらお弁当の日を2か月に1回程度設けるとか。新しいメニューを入れていくとか。海老名にもたくさんの店舗がありま

すので、シェフの方からメニューをいただいて、それを給食の中に取り入れていくとか。やはりこの時代に合った新しい給食、子どもたちが残さずに食べるおいしい給食を今後考えていく必要があるし、この中学校の給食を始めるに当たってはよい機会ではないかと思っておりますので、ぜひそのあたりのところを課題の1つとして扱っていただけたらありがたいなと思っております。

○市長 ほかにございませんか。

私のほうから申し上げます。小学生が苦手とする献立については、工夫をすると説明がりましたが、本当に大切なことです。苦手なものを食べてもらうには調理の料理の工夫が必要だと思います。栄養士だけに任せるのではなく、平井委員のご意見のように、専門家にレシピを見せてやってみるとかも考えられます。それから、冷たいものへの対応。冷たくなってしまふ原因を調査して、食缶を変えるとか、配膳の仕方を変えるとか、温かくておいしいものを冷たい状態で食べたらいしくないものと感じます。だから、その辺をしっかりと考えてください。

それから牛乳です。冬でも冷たい牛乳を飲ませますよね。それについては、一定の議論が必要だと思っているのですが、牛乳が冷たくて飲めないなら学校に何か所か電子レンジでも置いてもよいじゃないですか。私はそう思う。家ではそうやっていると思うのです。子どもたちはそのぐらいできます。今後はそういったものも必要になってくるのではないかと私は思っています。学校には調理室もあります。そういったところを生かしながら、温かい牛乳のほうがよいという児童生徒には温かい牛乳を飲んでもらう。牛乳が飲めないという人は代替りのものを自分で持ってくるとか。そういったことを考えていってもよいのではないかと。昔は用務員がお茶を入れてくれたという時代がありました。私の頃は給食がなかったので、お茶は用務員が出してくれました。様々な形で考えていく必要があるのではないかと私は思っています。

中学校給食については、私も平井委員と同じで、180何日やる必要はないと思っています。ある程度、これだけ子どもたちが家庭弁当を望んでいるのならば、試験的に1か月に1度は弁当の日を設けてもよいと思います。家族のコミュニケーションとしてやるべきことではないかと思う。なぜ今回、中学校給食に踏み切ったかということ、学校給食を始めることで、働く人たちの環境を整えるということがひとつの理由としてあります。でも、子どもたちの思いはどうするかということもあります。今回の調査結果からも、子どもたちの6割は、家庭の弁当を楽しみにしているということがわかります。保護者の負担軽減

を考えながら、家庭内でのコミュニケーションとしての弁当、給食の在り方というものも研究していく。例えば、副食だけを提供して主食を持ってきてもらう、逆でもよいです。そういったことも必要ではないかなと思っています。

共通点として言えることは、作る側と食べる側が、現在は離れているのです。自校方式の場合は、作る側と食べる側は同じ学校内にいますから、直接顔を合わすことができます。センター方式でも、作る様子を知ってもらうという方法として、例えば、児童生徒が一人1台持っているiPad等の端末を活用することで、できるかできないか分かりませんが、作る場面を動画で流して、それを食べる前に見られるようにする。つまりこれだけ苦労して作っているのだから残してはいけないという気持ちにもなる。作る人が見えないから、買ってきたものと同じような感覚だから、苦手なものを残してしまう。私は牛乳が嫌いで学校に行けなくなりました。昔。そういう経験があったのですよ。牛乳が楽しみな子どもは学校へ行くけれども、あの頃の給食は牛乳しか出ませんでした。牛乳を飲むと思うと憂鬱になります。その憂鬱が積もって小学校に行かなかったことがあるのです。そういう子もいますので、教育委員会で議論していただきたいことは、給食費も物価上昇していますけれども、子どもたちにかかるのはできるだけ値上げをしたくないのです。工夫してやるのにも限度はあります。だから、もしも令和4年度予算編成にあたって、この給食費の保護者負担額で本当にやっていけるのかという部分については、公会計ですから、不足分は補ってまいりますのでよろしくお願いしたいと思います。

**○教育長** 給食費は44,000円を今年度から49,500円に値上げとなりました。コロナ禍であり、値上がり分の3分の2は公費負担でというところで、だから1食当たりになると30円の値上げなのですが、その30円のうち20円程度は市の公費で支出しています。10円の値上げ分を保護者に負担していただいています。次年度については、保護者負担を20円分に増額とするのか、そのまま据え置くのか今後、教育委員会で議論しますので、市長部局とも話を進めてまいります。

**○市長** その辺は、予算編成時期なので早めに教育委員会で決めていただくようよろしくお願いします。献立の工夫、栄養士による食育、作る側と食べる側のこと。作る側も常に食べる側を意識できるような仕組みも必要だろうと私は思います。そうしていくことでよくなっていきます。よろしくお願いします。ほかにございますか。

教育委員の皆様は給食を食べましたか。子どものときです。教員としてではなく。

**○市長** 武井委員は？

○武井委員 小学校のときは食べました。

○市長 濱田委員、平井委員はないですね。職員は何人ぐらいいるの？給食を食べた人。傍聴の方で給食を食べた人、いらっしゃいますか。その方たちは海老名市外ですね。海老名市内で給食を食べた人は少ないですね。ぱっと見ると私と年齢が前後している年代とお見受けします。東京都内や地方から来られた方は給食を食べた経験があるのですが、海老名市給食は遅れているように言われますけれども、全然遅れていません。歴史が浅いということなので。今後、よりよいものをつくるという形で研究してもらって、中学校給食も始まるのでよろしくお願いします。

では、傍聴の方からご意見はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、協議事項(2)「学校現場における多様な子どもたちの支援について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

○教育支援担当課長 教育支援課よりご説明いたします。

学校現場における多様な子どもたちの支援についてということで、えびなっ子しあわせプラン第3期では、学校教育のゴールイメージをご覧のとおりを設定しております。そのキーワードは「多様性」でございます。

多様性とは、性別とか国籍・人種、あるいは障がい、性的マイノリティ、あらゆる年代層、書いてあるとおりの認識で進めておりますけれども、こちらの「ひとりひとりの『多様性(ちがひ)』に対応した教育の実践をめざす」ということを掲げております。その違いによって壁やハードルやバリアを張るようなことがないような形の教育の実践を目指しております。

具体的にはスライドに記載の3本柱を掲げて進めているところでございますが、その中の教育支援体制の充実というところでは、人材の派遣やチーム支援、そして個別の支援計画の作成・実施というところをキーに考えております。

では、実際に多様な子どもたちへの支援例を紹介させていただきます。現在の小中学校の特別支援学校に在籍する児童生徒数ですが、令和元年に200人を超えまして、今年度は233名おります。

このような児童生徒への支援としましては、1つ目として介助員による支援です。スライド左側に書いております支援を主に行っております。こちらの写真は運動会の様子です。プラカードを持って入場してきた様子です。かけっこに参加しまして、後ろから介助員が押して、一生懸命押してゴールしましたけれども、とても素敵な笑顔でゴールライン

を切ったところを印象深く覚えているところがございます。

2つ目、看護資格を持っている看護介助員による支援です。こちらは医療的ケアが必要な児童生徒の体調管理や直接的な医療的ケアを行っております。現在6名の看護介助員がおりまして、基本的な部分での情報交換等を行ったりしながら、それぞれの児童生徒に対応しているところがございます。

3つ目は、言語聴覚士による支援です。言語指導だけではなく、機能訓練として食事の際のそしゃくや飲み込み、給食の指導等も行っております。

次に、外国につながるのある児童生徒への支援についてですが、外国につながるのある児童生徒数は平成29年に100名を超えて、現在は110名おります。世界各国、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、そして南北アメリカ大陸、全20か国から外国につながるのある子どもたちが海老名の小中学校で過ごしております。

具体的な支援例としましては、国際教室設置校が小中学校合わせて9校。日本語指導講師の派遣を行う学校が18校あります。日本語指導講師は、日本語の定着がメインとなる支援を行いますが、特に心のケア、子どもたちが日本に来て不安等もあると思いますのでその心のケアを行います。日本語指導講師の中には児童生徒の親御さんへのケアをする方もいます。また、支援の一環として、児童生徒たちが日本の文化を学ぶようなイベントを各学校で行ったりもしています。日本の浴衣やはっぴを着たりして、楽しそうに過ごしています。この写真は、小学校1校と中学校1校の子どもたちなのですが、このように多くの外国につながるのある児童生徒が海老名の小中学校に通っています。

スライドの写真はある小学校の低学年の休み時間の様子です。チャイムが鳴って、昇降口からとても楽しそうに出ていく、普通に見られる風景ですが、この子の性別は男の子です。男の子、女の子という性別の枠にくくることができない児童ということです。入学にあたり、どのようにすれば安心して過ごせるか、学校環境を整えられるかということをお母さんと相談をしました。

このように入学前に教育委員会とお母さんとで相談をし、保育園、幼稚園とも連携をしながら、入学後の生活場面でどのようなところでどのような配慮が必要かということをお母さんと現在進行形に検討をし、実際に実施しています。また、児童の成長に従って、各学校に派遣しているスクールカウンセラーの関わりもあります。

このようにお子さんが安心して学校生活を送れるようにチーム支援を整えております。実際、私もこの児童を見に行きましたが、小学校低学年の児童にとっては、男の子、女の

子という観点よりも、普通に仲よしのお友達の〇〇さん。子どもたちから受容性の高さを学んでいます。つまり、男、女、格好がどうかということよりも、それがどうしたの、当たり前と一緒に過ごしている友達だよというところ。子どもたちの中から自然と、一緒に生活をしていく中で認め合える心ができるしていくところを、成長に従ってこちらもずっと見守って養っていくと考えているところでもあります。

また、中学校制服のジェンダーレス化については、女子のスラックス着用等、制服を受け入れるハードルが下がっていくのではないかと考えております。

我々が考える支援というのは、このスライドの図を1つのクラスといたしますと、この3名だけに支援をするわけではなく、例えば、黒板が見やすい席にするとか、発表するときは横について声かけをする、給食を食べるときには十分な時間を確保する、休み時間は友達関係等をしっかり見守る、教室がつかれば別の部屋を確保する、全体に指示した後個別に指示をする等、本人に寄り添った対応を徹底していく形で、1人1人の場面に応じた支援を実施していく。これはこの児童に対してではなくて全員。1人1人が様々な色を持った1人1人の存在として見ていきながら、この全員に、スライドの図にあるような支援を進めていくことができたらいと思っています。そのキーに個別の支援計画の作成を上げております。

「子どもたち全員が多様なひとりひとり」という存在であり、それぞれの場面において必要な支援を子どもたち全員に行っていきたいと考えております。

以上です。

○市長 協議事項(2)「学校現場における多様な子どもたちの支援について」説明が終わりました。委員の皆様から何かございますか。

○濱田委員 説明にありましたように小学校の運動会で、介助員や支援をする方とともに児童のみんなが参加できることは本当よいことだと思っています。これからもさらに充実させ、学校運営につないでいけたらと思います。これからは先見的な教育サービスという捉え方、そこには相当な投資をしないと、社会が成り立たなくなるのではないかと思います。そのためには、もう我々も考え方を変えなければいけませんし、やはり行政側としても、これはこれで本当に必要なこととして市長にもぜひそのようにお考えいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

○市長 他にいかがでしょうか。

○武井委員 濱田委員のご発言にもありましたが、やはり対応をしていくのが、現場にと

っても複雑で大変になっていくと感じます。先ほどのグラフを見ても、過去10年間で振り返って、支援を必要とする児童生徒の数が倍増しており、教育行政として、個別対応や学校現場での支援体制がかなり求められています。また、少し違ったアプローチができるのかなと考えると、今いる児童生徒を巻き込んで、このような多様性のある方々を理解してもらうということも一番大切なことであると感じました。昔は個別対応をしなかった関係で、例えばそのような子がいじめとか仲間外れになることもあったのですが、子どもたち自身が多様性についてある程度理解をするようになってくることで、様々な子どもたちと一緒にクラスで教育や学びをとおして関わりを進めていけば、教育行政における支援体制の一助になるのかなと思います。

**○酒井委員** 先日、教育長が、教育というのはやっぱり人なのだとおっしゃっていただき、私も本当にそうだなと思っています。目の前に子どもがいたら、その子がどんなことに興味関心があるのか、どんなことで悩んでいるのかということに気持ちを寄り添わせることができるのは人しかいないのだろうと思っています。ICT技術によって様々なサービスもあり、テクノロジーは進歩しますが、やはりそこには人が必要です。特別支援学校の児童が運動会で走ったり、様々な行事に参加できるのもやはりその場で車椅子を押してくださる方がいるからですし、このように人の手が学校の中に、多く入ってきているので、このような点は、さらに充実してほしいと思います。また、普通級でも同じようにみんな1人ずついろいろな気持ちを持っているし、できること、できないこと、悩みがあります。ぜひそのような子たちも漏らすことのないように、1人1人を見つめながら育てていけるような学校教育と家庭での教育をしていければよいと思います。

それからLGBTQというのは、本当に最近、皆さんの中に浸透してきた言葉です。私たち親世代も、例えば自分の子どもの友達にLGBTQの方がいたときに、どのように接するのが正解なのかとか、知らないうちに傷つけてしまうことがないのかなと思って、少し距離をとってしまうことが起こり得るのではないかと思うことがあります。ぜひ親世代もどのように接していくのがよいのかというのを学んでいけるような場を考えていければよいと思います。

**○平井委員** 私は以前支援教育を担当していたことがあります。今の支援教育を見ると、本当に海老名の教育は充実してきていることがわかります。確実に充実してきています。海老名はかなり以前から近隣市でもいち早く海老名小学校に看護介助員を入れました。ですから肢体に障がいのある児童も地域の学校で学べる環境ができており、海老名市の支援

教育は誇れると思っています。説明にありましたようにあらゆる角度から支援を行っています。この人的支援は非常に大きくて、子どもたち1人1人の学びを保障するためには人的支援がないとできないのです。ですから、人的なものに財政的配慮をしていくかという部分においては本当にありがたいことだと思っています。子どもたちの希望につながる場所も大きいのです。この学校での教育がゆくゆくは就労につながっていきます。学びの中で社会生活に関わる部分やっていると、子どもたちは確実に就労で成果を上げていくことができます。子どもたちが自力で会社に通って仕事をしている。そこまでの学びが海老名ではできていると思っていますので、今後もぜひ1人1人の学びの保障ができるための人的支援の部分をお願いしたいと思います。これがないと、子どもたちは社会の中で生活していくのが厳しくなっていくと思います。ですから幼稚園・小学校・中学校、それから就労の道に続いていくと思うのですが、そこまでを私たちは見届ける必要があるのではないかなと思います。

それから、障がいや発達に心配のある子どもたちの「親の会」も充実していると思います。このような団体は、教育長や市長も懇談の場を持たれていると思うのですが、親御さんたちの願いが確実に行政に届いているということもすごく大きいかなと思いますので、ぜひ今後も続けていただけたらよいなと思います。

**○教育長** 私自身も、教育目標としての多様性をメインに進めてきているのですが、実は内野市長は、障がい児・者教育、障がいのある方の理解、寄り添い、このような気持ちが大変強いので、子どもたちのことも大変理解されていて、今後の予算編成においてもある程度優遇してくださっています。

**○市長** いわゆる共生社会というものを目指して、障がいのある児童が在籍する学校への支援、多様性への対応にかかる人的支援はしていきたいと思っています。今後学校側にも考えていただきたいことは、例えば、車椅子を利用する肢体に障がいのある児童が在籍する場合には、学年別でフロアを分けるのではなくて、その児童のクラスを1階にするということも考えていただきたいのです。上の階の教室となると、バリアフリー対策が必要になります。工事をして全面的にバリアフリーにしていくことも必要かもしれませんが、工事にかかる費用を人的支援に充てることができます。学校は管理しやすいように1年、2年、3年と校舎やフロアを分けているのですが、それを多様性の中で少し考えていただくことで、ある程度その経費を人的支援や、別の必要な予算に充てることができると思います。

これからの校舎の改修計画の中で、障がいのある児童・生徒が全てのフロアに移動できることが望ましいとは思いますが、やはり予算にも限度があります。学校でもそのあたりを考えていただき工夫していけたらよいと思っています。管理のしやすさではなく、子どもたちにとって、どのようにしたらよいのかを考えていただきたいなと思っています。今後も人的支援は行ってまいります。先ほど、就労についてお話がありましたが、今、こどもセンターがあり、隣にわかば会館があります。わかば会館では、わかばケアセンターによる障がい者デイサービスを行っております。その成人障がい者のデイサービスを別の施設に移して、わかば会館を子どもたちの施設にしようと考えています。発達障がいや発達に心配のある子どもたちに対応できる保育施設を開設したいと考えています。その施設内で訓練や経験をしながら、就学時には普通級に入学できるようにするとか、その子に合った対応ができるような拠点をとを考えています。

また、現在、成人の障がいのある方に向けた福祉公社を立ち上げています。中学生くらいまでは様々な支援が受けられるのですが、高校生になると分からないのです。特別支援学校に進学するとその後のことも分かりますけれども、卒業後は分からないのです。海老名市内には現在、障がい者が約5,500名おります。5,500名の皆さんの状況は個々に異なります。自立を支援していくために、障がい者就労と農業を連携させていくとか、働くことができ自立できる方に対しては、1人で住めるような住まいを確保していく等を考えています。今後、障がいのある方が住めるように改修した住宅やアパートを福祉公社が借り上げて、障がいのある方に住んでいただけるような事業を進めています。

誰もが自分らしく自立できるような共生社会を目指して取り組んでおります。予算があればどんどん進めることはできますが、できないものもあります。そこは知恵を出して工夫してやっていきたいと思えます。

先ほどの説明の中にもありました、国際交流についてですが、海老名市では国際交流はあまり進んでいないと言われていたようです。大和市には、公益財団法人大和市国際化協会という組織があります。大和市内の団地で難民の受入れ等も行って様々な国の方が住んでいます。公益財団法人大和市国際化協会では、この度の新型コロナウイルス感染症ワクチン接種においても、日本語が分からない方向けに通訳ができる人材を派遣すること等を行ったようです。海老名市でもできたらよいのですが、1市で行うのは難しく、海老名、綾瀬、座間、それから大和、広域で実施していくことを提案したいと思っています。今後、海外とつながりがある児童生徒が増えてきても、学校で受け入れいくことができれば

非常によいですね。言語教育ではなく、日常的なところをサポートしてくれる人がいると、生活しやすくなります。その辺も含んで今後検討してまいりますので、よろしく願いしたいと思います。以上です。

それでは協議事項(3)「図書館の取組について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

**○学び支援課長** 学び支援課より説明させていただきます。

海老名市の図書館の取組について、現在、有馬図書館と中央図書館の2館をメインにして運営を行っております。インターネットで予約して、図書館に行かずに図書等の受取り、返却ができるよう、海老名駅前のえび〜にゃハウス、上今泉にあります海老名市障害者支援センターあきば、国分寺台文化センターに取次所を設けております。図書館利用者は増加しております。現在、中央図書館では、年間約70万人の方にご利用いただいております。

平成26年度から指定管理制度を導入しており、毎年利用者アンケート調査を実施しております。その結果といたしまして、中央図書館における満足度が年々上昇しており、令和2年度においては87.1%まで達している状況です。さらに詳細な部分を申し上げますと、年中無休であったり、館内の居心地、スタッフの対応などの満足度が上がっています。こちらの高い評価をいただいているところを今後も維持しつつ、さらなる利用者サービスの向上を目指して運営してまいります。それでは、今年度、令和3年度における新たな取組について簡単にご説明させていただきます。

まず、中央図書館ですけれども、1階をリニューアルして、4月から「学びのエリア」を設置しました。この「学びのエリア」は、4階のキッズライブラリーを卒業した小中学生を対象に、放課後を過ごす場所として新設しました。学校の課題や、夏休みの宿題ができるようにということで、小中学生向けの資料を充実させております。

そして、ここでの新たな企画として、毎週月曜日から金曜日まで、16時30分から1時間程度、小中学生向けのイベントを日替わりで実施しております。毎日楽しみながら学べるような時間を過ごせる企画を実施しております。

また、1階の「学びのエリア」にティーンズ向けの書籍等を移動させたことによって、4階の空いたスペースにはキッズ向けの絵本や紙芝居など、さらに蔵書を増やし、充実させております。さらに子どもたちが自由に絵本などを読むことができるようにしております。

続きまして、有馬図書館のリニューアルオープンについて説明いたします。昨年1年間、大規模改修工事を実施し、令和3年5月1日リニューアルオープンいたしました。図書エリアにつきましては、予約本受取コーナーや自動返却機を新たに設置して、人を介せずに貸出し、返却ができるようになったことから利便性が向上しています。また、図書を開架しているエリアから2階の学習室に直接上がれる「学びの階段」を新設して、開架書棚から取り出した本を学習室に持ち込んで読むことができるようになりました。

さらに、今回の大規模改修工事によって、コミュニティセンターと一体運営の複合施設になったことから、図書館の図書をそのまま持ち込み、屋外のけやきテラスや集会室、館内外どこでも読むことができるようになりました。また、学習室にはW i - F i を完備しておりますので、学習、読書だけでなく、パソコンを使って作業することが可能になりました。館内には授乳室も設けましたので、小さなお子さん連れの方も安心してご利用いただけるようになったと思います。

有馬図書館は、19時閉館だったのですが、21時閉館とし、2時間延長となりました。蔵書を増やし、書籍等の入れ替えも行い、学習室は59席に増設しました。駐車場も43台に増設しております。

開館時間が2時間延長しましたので、新たな取組ということで、「よるとしよ」という企画を実施しております。仕事帰りの帰宅途中の皆さまが参加できるよう、18時台、19時台に企画を設定し、内容も大人の方が満足いただけるような、アレンジメント講座やアロマ講座等のイベントを企画・実施しております。

最後になりますけれども、海老名市立図書館は、「ひろがる・つながる・みんなの図書館～「学び」と「コミュニティ」の拠点へ～」ということをコンセプトにして運営を進めております。今後も、中央図書館は海老名駅近くの利便性の高い図書館、そして有馬図書館はコミュニティセンターとの複合施設として、地域の特性とその役割を踏まえながら、独立性を持った学びとコミュニティの拠点として進化を図っていきたいと思っております。以上で説明を終わります。

○市長 ただいま説明がございました。ご意見等がありましたらお願いします。

○平井委員 海老名市立図書館が指定管理者制度を導入するにあたって、どれだけ海老名市の図書館の特色が出せるのかという思いが最初の頃にありました。けれども年々、市民や利用者の声を聞いて、それぞれの立場で利用しやすいように、新しいものに取り組んだり、改良したりして、よりよいものになってきていると思います。今後もぜひ市民や利用

者の声を聞いて、だれもが利用しやすい図書館、海老名が誇れる図書館にしていってほしいなと思います。以上です。

○市長 ほかにはいかがでしょうか。

○酒井委員 コロナ禍の中でも感染対策をしながら開館していただいたので、よく利用させていただいております。読書もでき、勉強もできるよい場所となっていて、本当によかったとしみじみと思っています。

駐車場が有料化すると伺っております。それに伴って自転車で来館する方が増えると思われます。駐輪場がやや狭いと思いますので、十分な広さの駐輪場があるとよいなと思っています。

○市長 中央図書館のところの道路を工事しています。工事後は今の駐車場が3分の1以上減ってしまうのです。借地なので、その借地料もかかっています。今後、整備をして、夜間でも防犯カメラでしっかりと防犯対策をしていく等、様々あります。駐輪場については、指定管理者からも言われておまして、自転車を不法投棄のような形で置いていく人もいるようです。そのあたり対策をしっかりと行っていきたいと思っています。

今後は電子図書の方向性も考えていかなければならないと思っています。現在、子どもたちはタブレット端末を1人1台持っていますから、そのうち教科書がなくなって、タブレット端末に教科書が入っていく可能性もなくはないと思うのですね。各学校でやるのはなかなか難しいので、図書館のほうで、子どもたちの電子図書について考えて試験的な運用をやってもおもしろいのではないだろうか。今後、情報システムに係る予算を積み立てる制度の導入を検討しています。児童生徒が使うタブレット等の端末をこの度一斉に導入しました。一斉に導入したということは、5年後ぐらいには一斉にバージョンアップや入れ替えが生じるということです。これには多くの予算を必要とします。これまでも教職員用のリース端末を一斉に入れ替えることができないので、年度をずらして入れ替えています。IT関連機器はタイミングよく替えていかないと、1、2年過ぎてしまうと古くなってしまいます。入れ替えに予算がかかるということで、情報システム基金として3億円の積立てを行い、最終的には5億円ぐらいまで積み立てて、そこから平準化していこうと考えています。例えば基金5億円のうち、2億円使ったらまた2億円を繰り入れていこうという形で考えています。これが導入されると、学校教育現場においても同時入れ替えが可能になります。このような中で、電子書籍とか教科書というものを全く考えずにいることは遅れていくことになります。検討に入ったほうがよいと思いますので、よろしくお願

したいと思います。

それでは、最後に傍聴の方で、これだけはお話ししておきたいという方、いらっしゃいますか。

それでは、これで議題は全て終わりましたので、司会を次長のほうに譲ります。よろしくをお願いします。

**○教育部次長** ありがとうございます。海老名市総合教育会議の協議事項につきまして、これで終了となりますので、ライブ配信のほうはここまでとさせていただきます。ライブ配信をご視聴いただきました皆様、ありがとうございました。

この後、次第4の学校紹介になりますが、本日は有馬中学校の紹介を予定しております。準備のために5分ほど休憩をいただきたいと思います。ご協力をお願いいたします。

( 休 憩 )

(有馬中学校生徒入場、拍手)

**○教育部次長** 本日は3人の生徒をお迎えして有馬中学校を代表して学校紹介をお願いしたいと思います。生徒代表の皆様、発表をよろしくお願いいたします。

**○有馬中学校生徒1** 有馬中学校は、1947年、昭和22年に開校しました。来年、2022年で創立75年を迎える海老名市内で伝統ある中学校です。親子3代もしくは4代にわたり有馬中学校卒業というご家族もいらっしゃると思います。

**○有馬中学校生徒2** 有馬中学校は、海老名市の南部、本郷地区にあります。有馬小学校、社家小学校、門沢橋小学校の3つの小学校を卒業した生徒が通学しています。有馬中学校は通学区域がとても広いため、市内で唯一、自転車通学が認められている中学校でもあります。

**○有馬中学校生徒3** 有馬中学校は、11月1日現在、1学年187名、2学年208名、3学年186名、合計581名の生徒が通っています。ご覧いただいているのが有馬中学校の校章です。現在もそうですが、開校当時、学区内に田園風景が広まっていたことから、ペンと稲穂をモチーフにして作成されました。

**○有馬中学校生徒1** 有馬中学校の今年度の学校教育目標は「自ら学ぼう、皆で創ろう」「励まし合い、教え合い、皆で成長する学校」です。4月の始業式は映像を通しての実施となりましたが、校長先生がとても丁寧に私たち1人1人に語りかけるように説明してくださいましたのを覚えています。各教室に啓示されていて、私も「自ら学ぶ」ということを日々実践しようと頑張っているところです。

○有馬中学校生徒2 さて、少し余談にはなりますが、2018年に放映されたテレビCMの撮影で有馬中学校が使用されたということをご存じでしょうか。ゲームソフトのCMだったそうです。私はまだ小学生だったため、リアルタイムの感動はありませんが、映像を見たときに少し不思議な感じでした。当時在学していた先輩たちはかなり盛り上がっていたと聞きました。

○有馬中学校生徒3 ここからは、有馬中学校の特徴についてお話しします。

1つ目は二大行事です。二大行事の1つは体育祭です。今年度は10月20日に、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、例年の凝縮版で行われました。

○有馬中学校生徒1 3色の組に分かれ、優勝を目指して、各色、準備から当日まで、3年生を中心に生徒が主体的に取り組み、一致団結して戦います。有馬中学校といえば、何といっても応援合戦が一番の見所です。各色がおのこのテーマに沿ったダンスや演技を行います。保護者の皆さんが一番見たい種目ではないかと思えます。

実はもう1つ見所があります。モザイクアートです。アートクラフト部の部員全員で、団長3人の顔を色とりどりのスズランテープを使用して作成します。私も初めて見たときは感動しました。

○有馬中学校生徒2 二大行事の2つ目は合唱祭です。令和2年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまいました。今年度は、現在、延期という形になっています。

○有馬中学校生徒3 例年は、海老名市文化会館をお借りして実施しておりますが、今年度は、舞台のある有馬小学校体育館をお借りして実施が予定されています。例年以上のクラス合唱の美しいハーモニー、そして迫力の学年合唱が実施できたらよいなと思っているところです。

○有馬中学校生徒1 有馬中学校の特徴の2つ目は、部活動です。有馬中学校には、運動部が12部活、文化部が4部活、合計16部活が活動しています。

○有馬中学校生徒2 職員室の前の廊下には、所狭しと賞状が飾られています。また、ショーケースにはたくさんのトルフィーや優勝カップも並んでいます。部活動がとても盛んであるあかしだと、私自身も有馬中学校の1人として誇らしく思います。実は、最近知ったのですが、男子プロゴルファーの堀川未来夢さんが本校の卒業生だそうです。国内ツアーで優勝もされていて、目覚ましい活躍をしています。

○有馬中学校生徒2 有馬中学校の特徴の3つ目が小中連携です。先ほどもお話ししまし

たが、有馬中学校は3つの小学校の卒業生が集まっています。小学校のときには小学校間の交流が行われ、入学したときにはほかの小学校の人たちと初対面ではなかったりするので、早く友達になれました。また、小学生は、中学校に体験入学という形で体験授業に参加できます。私たち生徒会本部は、その際に、小学生たちに、有馬中学校を紹介するプログラムを実施します。昨年度はコロナの影響で体験入学が実施できませんでしたので、プログラムを映像にして、各小学校に送らせていただきました。

**○有馬中学校生徒3** 最後になります。私たち生徒会本部が、今年度、重点的に取り組んでいることをお話しします。

1つ目はあいさつ運動です。校長先生もおっしゃっていましたが、やはり挨拶は大切だと考えています。毎月、第1月曜日の朝、昇降口付近で生徒会本部がのぼりを立ててあいさつ運動を行っています。今月は、1学年委員会、それに2学年委員会とコラボして行いました。これからも継続していきたいと考えています。

**○有馬中学校生徒1** 2つ目が自転車登下校時のマナー向上です。有馬中学校は、市内で唯一、自転車登下校が認められた中学校です。入学後、数日して自転車安全教室が実施され、翌日から1年生の自転車通学がスタートします。しかし、通学路は安全なところばかりでなく、時には近隣住民の方々から乗り方の注意を受けております。私たち生徒会本部も、安全な登下校の呼びかけで、いつまでも自転車通学が続けられるように頑張りたいと考えております。加えて、実は有馬中学校には駐輪場がなく、グラウンドに駐輪スペースを設けています。みんながマナーを守って駐輪できるような呼びかけも行っていきたいと考えています。

**○有馬中学校生徒2** 今後も有馬の伝統を大切に、豊かな人生を送るために、学校生活を有意義に過ごしていきたいと思えます。

これで有馬中学校の紹介を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

**○教育部次長** ありがとうございました。すばらしい発表でした。チームワークもすばらしく、たくさん練習されたんですね。

ただいまの発表を受けまして、出席者の皆様から何かお言葉などございますか。

**○武井委員** 皆さんこんにちは、有馬中学校卒業生の武井といいます。

大変すばらしい生徒会だと思っております。僕たちが現役のときの生徒会は、今おっしゃっていた自転車通学をするということを目的に、みんな一生懸命頑張って、自転車通学を実現させた世代でした。これからも生徒会活動を頑張っていってください。

あともう1つは、自分のバロメーターがあるのですけれども、有馬中学校って高台の上にあって、毎日、登校のときに坂を上る感じですよ。僕も自分のバロメーターがよいときと悪いときがあって、よいときは坂道が何とも思わなかったり、悪いときはすごく重たく感じたりしたので、ぜひそういうことを乗り越えて、学校生活を頑張ってください。

○濱田委員 3代続いて有馬中学校を卒業しました濱田といいます。多分ご近所ですから分かると思いますけれども、よろしくお願いします。今日はよい発表をありがとうございました。「映るは雨降、富士箱根」という歌詞の校歌があります。すばらしい環境の中で、学習をしたり、生徒会活動、それから部活動をして、これからの充実した人生を送れるように頑張ってください。（拍手）

○酒井委員 発表お疲れさまでした。ありがとうございました。中学生といえばInstagramなんかを一生懸命見ているイメージもありますが、有馬中学校の周りの子どもたちはどんな感じでしょうか。

○有馬中学校生徒 ツイッターとかも入りますかね。

○酒井委員 ではSNS全般で。

○有馬中学校生徒 SNS全般というと、やはりやっている人は多いですね。クラスの子同士でそのような話をしたり、お互いフォローし合ったりすることもあるということになります。

○酒井委員 ありがとうございます。

○平井委員 有馬中学校で私の心の中に焼きついているのは体育祭です。何しろ力いっぱいですばらしい。これは来ている人に感動を与えます。きっとこれからもその流れは続いていくと思います。底力があって、すばらしい生徒さんたちが大勢いる有馬中学校の体育祭、またぜひ参加したいと思っています。

○市長 何か学校で困っていることはありますか。

○有馬中学校生徒 困っていることではないのですが、自転車通学について。先ほど説明したとおり、地域の方々から苦情が来ると自転車通学ができなくなってしまうので、私たち生徒会も苦情につながることをないように自転車通学のマナーが守れるよう活動をしていきたいと思っています。

○教育長 学校の校舎のことで困っていることはないの。

○有馬中学校生徒 雨漏りがひどいです。

それから、テニス部からは、外コート近くにトイレを造ってほしいということを要望

しています。

○有馬中学校生徒 私は剣道部なので、体育館で部活動をしているのですが、雨漏りで床が濡れるので滑って怪我をしないように気をつけています。廊下も何か所も雨漏りがあるので、直してほしいなと思います。

○市長 有馬中学校は歴史が長いじゃないですか。学校の場所はあそこがよいですか？門沢橋小学校の近くに移転をするという考え方はどう思いますか。そうすれば全てが新しくなります。

○有馬中学校生徒 そうですね、場所が変わると、坂がなくなるので通学が随分楽になると思います。

○市長 なぜこのような話をしたかという、学校の統廃合で廃校になっているところはいくつもあります。地方でも。統廃合をできるだけ集約をしてやっていきたいと考えても、有馬中学校を廃校にするといっても卒業生の方からはなかなか許してはもらえない。有馬中学校は絶対残すという思いを持っています。しかしながら、児童生徒数も減っているので、小中一貫校という考え方で、小学校と中学校を併設して新しい校舎を建設することも考えられます。これについて皆さんはどのように思いますか。そうすると今の雨漏りのことも解決できます。

現在の校舎を修繕していくのは費用がかなりかかります。現在、今泉小学校で新しい校舎を建設しています。すばらしい校舎です。これからの将来を見据えた学校の校舎はこのような校舎になのだろうと思います。そう思うと、改修がなかなか難しいならば造り替えてしまおうと思っています。今、有馬中学校に通う生徒は社家地区、門沢橋地区のほうが生徒数が多いのではないかと思います。どうしても鉄道駅付近に住む人が多く、本郷地区のほうは住む人が少ないわけです。本当は駅の近くに学校があったほうが良いのではないかという案もあります。どのように思いますか。

○教育長 小学校が3つあるでしょう。それを例えば、有馬小中学校という名称で小学校の6年間と中学校の3年間、合わせて9年間で1つの小中学校、1つの義務教育学校で行うことも考えられます。

○有馬中学校生徒 将来を考えるとそのほうがいいのかないという思いもあります。私は有馬中学校の窓から見える景色が好きなので、私の代で変えてほしくないという思いはありますが、弟もいるので、毎朝坂を上るのはつらいので、小中学校を同じにするのもよいと思います。

○市長 私も平井委員も海老名中学校でした。海老中学校から厚木方面を見渡すと田んぼが広がっていて、厚木市市街地が見えました。そんな時代です。新しいものを作ることは簡単ではありません。先日の愛知県での事件ですけれども、生徒数は54人、1学年が2クラスで生徒数が少ないのですが、あのような事件が起きました。生徒数が多いと大変なのかもしれませんけれども、生徒数が多いと楽しいこともあります。体育祭等の学校行事も楽しいですよ。色のチームもたくさんできます。先ほどのご意見、わかりました。

テニスコートの近くにトイレを設置してほしいということですが、あそこは排水がないので、下水道を引くのも予算がかかります。プールの跡地をテニスコートにして有効活用ができて良かったと思いますが、将来を見越して検討していかないと、後々大変なことになりますので、もう少し考えさせてください。

○教育長 私も有馬小学校・中学校に勤めておりましたので、第二の故郷だと思っています。有馬のために考えていきたいと思っています。

○次長 よろしいでしょうか。有馬中学校の生徒の皆様、すばらしい発表をしていただき、また、様々なご意見への対応をしていただきましてどうもありがとうございました。

以上を持ちまして海老名市総合教育会議のすべてを終了といたします。本日は誠にありがとうございました。